

点猫ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■132■

いよいよ今年も締めくくり。師走は気ぜわしく過している、あつという間にひと月がたつてしまふ。そんな最中、日銀前橋支店は、12月11日に開設80年を迎えた。これはひとえに、地正行政財界、金融界の皆さまのご協力とご支援のたまものである。この場を借りて御礼申し上げたい。

本店が開設された1944年は、本土空襲が本格化した年。当時の総裁は、新1万円紙幣の肖像・渋沢栄一の嫡孫、渋沢敬三だ。開設が決まったのは、日銀本店にも火の

は、決して偶然ではないのだ。

事は忘れてはならない。当店は、余燼くすぶる

の行員にも刻み込まれている。

粉が及び、総裁自ら消火に当たるといった状況の中だった。

記録では、総裁の厳命からひと月足らずで開設にこぎ着けた。当時の行員の行動力と集中力のすさまじさ、その原動力となった使命感の高さに、

身内ながら胸が熱くなる思いだ。また、店舗や金でも、金融インフラを継

それは、東日本震災後の計画停電や、2014年の大雪といった異例の事態において、現金供給をはじめとする業務を継続した際にも存分に発揮されたと自負している。

当時の日銀の関東の拠点は本店のみ。本店が焼

庫の調達では地元財界の多大なるご協力を仰いだ。重ねて感謝したい。

あつという間に過ぎ去っていく毎日も、それが皆さんにとって安心なものであるよう、たゆまぬ努力をする。そして紡いだ歴史をつなげていく。感謝と決意の年末だ。

紡いだ歴史つなぐ

失すれば、現金供給という基本的な金融インフラが失われる。また、仮に利根川の橋が爆撃されれば、それは北関東の金融的な孤立を意味する。当時の交通、産業、金融の中心地であり、利根川の北に位置する前橋に日銀の支店が存在すること

とところが、翌年8月5日夜の前橋空襲で店舗と行員寮がほぼ全焼。宿直職員のうち4人と、避難していた親族2人が亡く

継続的に提供するための努力を惜しまない。この「使命のDNA」は、現在

宮 将史(みや・まさふみ) 1974年生まれ。神奈川県出身。一橋大経済学修士。2000年日本銀行入行、政策委員会室国会渉外課長などを

日銀前橋支店が開設80年

の支店が存在すること



を経て24年7月から現職